

マンガプロットコンテスト 表彰式

IEEE Japan Council

Student Activities Committee Chair

明治大学

大野 光平



IEEE マンガプロットコンテスト2022



IEEE マンガ



自分のアイデアがマンガになる!

9/26 締切

IEEEマンガプロットコンテスト2022

メール・申し込みフォームのいずれかよりご応募ください。

メール: ji-san-manga@ieee.jp
フォーム: <https://forms.gle/WmF8upDn8DuVPSK6>

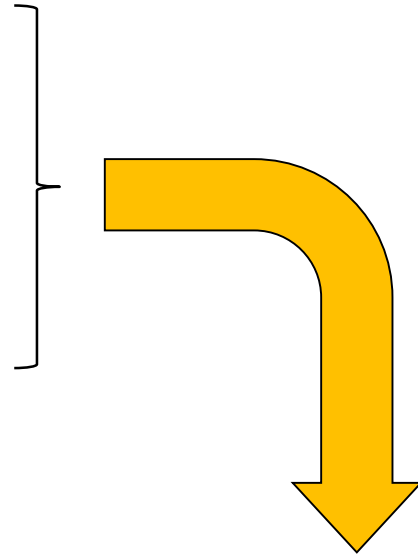
理系マンガのあらすじを考えて応募してください！
受賞作品は、プロが漫画化してくれます。





表彰と今後

-  **最優秀賞**
-  **優秀賞**
-  **WIE賞**
-  **特別賞**



プロと相談してマンガ化



海外用に英語化



英語と日本語でオンライン配信

最優秀賞 (Best Manga Plot Award)



タイトル: IEEE R10 Culture Night on Jeju Island

作者: Jiong Dongさん (室蘭工業大学)

内容: JiongはIEEEのメンバーであり、R10 SYWL Congressに参加することになっていた。今年は韓国で開催であり、Jiongの妹のHanが韓国にいることから、彼女も誘った。初め、HanはIEEEについてそこまで魅力を感じていなかったが、Cultural Nightなど、様々な国の文化を共有するイベントを通して、IEEEの活動の素晴らしさを体感していった。そこでは伝統的なダンスを披露し、会場の皆で一緒に踊ったり、日本からは習字で名前を書いてあげるパフォーマンスをしたり、多くの人たちが国の垣根を超えて素晴らしい交流が行われていた。気が付けば、Congressを終えるころにはHanは自分の大学に戻ったらStudent Branchを立ち上げようと決意をしているのであった。

最優秀賞 (Best Manga Plot Award)



タイトル: ラストティーン

作者: 中島 瑛子さん (早稲田大学)

内容:無事大学に入学したアンは情報分野の学科に進んだが、課題と授業に追われる日々が多く忙しい日々が続いていた。不安を抱える中で偶然“IEEE Region 10 SYWL Congress @濟州島”の情報を知る。様々な思いに駆られ、すぐに応募を決心した。Congressでは広い専門分野のプレゼンを聴き、各国の文化を共有するイベントに参加した。Congressを通して、将来の不安を少しだけ追い払い、自分の決断に自信を持って良いのだと思えるようになった。「周りとは比べ気負いする必要はない。世界の人々の知見を学びながら自身の研究分野を前向きに究めていこう。」そう心に誓い、アンの十代最後の夏が終わりを迎えたのであった。

優秀賞 (Outstanding Manga Plot Award)

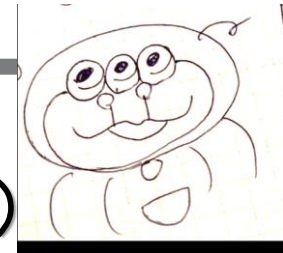


タイトル: コーガク女子2

作者: 臼井 久生 さん (東京農工大学)

内容: 茜の思い描いていた大学生活は1か月でももの見事に打ち砕かれた。活気にあふれ過ぎたサークル生活、難しく置いて行かれる寸前な大学の講義、それをこれからも使い続けるという事実、夢見た量子コンピュータへの途方もない道のり。それらを理解した茜は葵とひまわりに愚痴をこぼす。その愚痴さえも知ってましたと言わんばかりの二人にさらに打ちのめされた茜に手を差し伸べたのは堂島先輩だった。自分一人で進めていくことは難しいこと、そしてその巨人の肩の上に立つという言葉が茜に体験させて未来の自分のイメージを鮮明に作り上げさせた。

WIE賞 (WIE Award)



タイトル: IEEEもん(ぼく、トリプルえもん)

作者: 上野 藍香さん、石井慶子先生 (青山学院大学)

内容:生き馬の目を抜く研究の世界で生き残るため、科学の発展をもって国家建運に尽くすため、EEEもん(トリプルえもん)の道具によってアイカちゃんは偽造された休みの記憶を植え付け、週7、16時間の研究労働を決意する。心身を酷使したアイカちゃんは各種心身症状に悩まされ周りから味方がいなくなっていく。しかしアイカちゃんは自分が頑張っていることに気付いておらずもっと頑張らなければと思っている。十分に頑張りすぎていたことに気付いたアイカちゃんは休息の大切さを理解しトリプルえもんの道具に頼るのをやめ、毎日フィットネスセンターに通い、体にいいご飯を食べて、十分な睡眠時間をとり、地道な研究生活をスタートする・・・

特別賞 (Honorable Mention)



タイトル: Two Dreams!

作者: 川北 輝さん (北陸先端科学技術大学院大学)

内容:大学三年生 (工学部) のルミは、無料の学習塾で子どもたちに勉強を教えるボランティア活動をしている。ルミの夢は、「世界からネガティブな偏見や差別をなくすこと」であり、教育を通じて子どもたちの「思いやる心」を伸ばそうとしていた。ある日大学でゼミの先生がVR機器でネガティブな偏見を減らす研究をしていることを知る。これによりルミは塾の講師になるか研究の道を進めるか悩んでいたが、先生の研究を手伝う内に被験者からポジティブな言葉を貰い、研究で世界を救うことを決めたのであった。



特別賞 (Honorable Mention)



タイトル: AI vs. HS

(Artificial Intelligence vs. Homo Sapiens)

作者: 平田 琉聖 さん (慶應義塾高校)

内容: シンギュラリティ到達と予測されていた2045年以来、AIが人類の知能を遥かに超えて発達し、スポーツ、芸術、文化の全てが人類からAIに置き換えられてしまった2075年頃の話。角馬琉聖（カクバリユウセイ）は偉人伝を読み、将棋士藤井聡太竜王にあこがれていた。「AI将棋に勝った人類がいたのか!」。自分も将棋AI（ウィズ）を負かし偉人伝となる夢を見ていた。この時代、賭け将棋はAIvsAIの勝負が普通だが、角馬琉聖は人vsAIという初めての試みをした。観客からは「人がAIに勝てるわけないだろ」と罵倒されるが、思いの他善戦するうちに観客の心が揺れていく。そして遂にAIに勝利し、人類がAIの支配から逃れるのろしを上げたのであった。

特別賞 (Honorable Mention)



**タイトル:君は科学を知っているか？
～あるべき世界の君へ～**

作者: 山口 恭正さん (東北大学)

内容:たとえば、科学技術の発達とこれからの社会に一抹の不安を抱えている、Z世代を絵にかいたような主人公Zは、文系と理系の進路選択を迷っている。そんな時、悩みを聞いた理系の先輩と文系の先輩双方が歴史を振り返りながら意見を戦わせ、最終的に自分たちが生きていく（生きていかなければいけない）あるべき世界とは何なのかを問うていく。本作は「科学で考えることはできるけど、科学では答えを出すことが出来ない」という概念であるトランスサイエンスの概念を基に、あるがままではなく、あるべき世界を描いていく。

表彰式



2022年10月8日 SYWL Workshop2022@徳島大学などで表彰式を行いました。



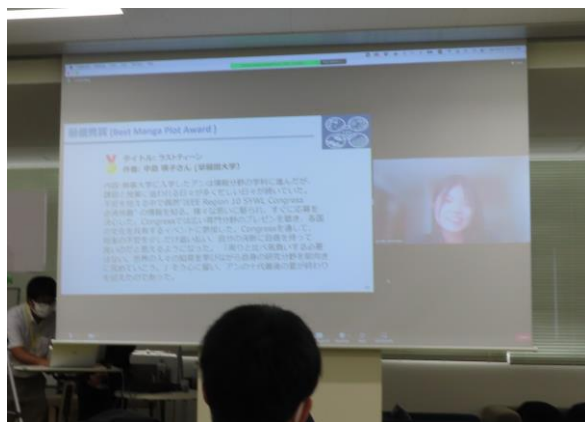
←優秀賞
臼井久生さん



↑最優秀賞
Jiong Dongさん



↑WIE賞
上野 藍香さん



↑最優秀賞 中島 瑛子さん



特別賞→
平田琉聖さん

来年も開催したいと思いますので、是非、ご投稿ください。

受賞作品は、
1月頃に
無料配信
の予定です。

